



稲梓地域まちづくり会議ニュース 第2号

「伊豆縦貫自動車道を起爆剤とした、将来も持続可能な稲梓地域のまちづくりを考えよう」

～実践活動へ向けての取組～

実施日：平成26年11月20日(木)

会場：稲梓基幹集落センター

稲梓地域で活動や居住されている20名のまちづくり会議委員によって、今回は、前回決めた重要な3つの事柄についての、実現のための具体策を検討しました。

グループごとの成果 (Aグループ)

| 方針 方向(基本項目) | 方針、方向を実現するために こんなものに取り組んでいきたい | 具体的に | | | 実施時期 | | |
|-------------------------|--------------------------------------|------|----|--------|------|----|----|
| | | 行政 | 住民 | 企業 | 短期 | 中期 | 長期 |
| 1. 定住者増加策 | 空き家(借りることができる土地・農地)情報を出す | | | | | | |
| ・A-2-1自然豊かな田舎暮らし | ・移住者への補助を行う | | | | | | |
| 定住者受入れ | ・働く場は三島方面でも | | | | | | |
| ・A-2-2サテライトオフィスの | 若者に安い宅地の提供を行う | | | | | | |
| 誘致 | ・縦貫道の建設発生土で宅地をつくる | | | | | | |
| ・B-1-4企業の誘致 | ・今の自然が良くて来るので自然は残るように | | | | | | |
| ・F-3-1情報インフラの整備 | (乱開発が心配) | | | ボーレボーレ | | | |
| | 地域を知ることができる(体験できる)場所(施設)づくり | | | | | | |
| | 地域を知るためのモニターツアー(宿泊型)の企画 | | | | | | |
| | 新規就農者を増やすための制度をつくる | | | | | | |
| | ・地元で農業を行う方に指導してもらうことができる | | | | | | |
| | 仕組み | | | | | | |
| | ・他にない品物をつくる,農家民宿を行う(6次産業化のためのアドバイスを) | | | | | | |
| | ・農地法の見直しを(農業を行いたい人は多い) | | | | | | |
| | 情報インフラ(光)の整備(手順がわからない) | | | | | | |
| | ・デザイン系オフィスの誘致 | | | | | | |
| | ・農業のネット販売にも必要 | | | | | | |
| | 木材を利用してくれる企業(稲梓のものを活用してくれる企業)の誘致 | | | | | | |
| | 今住んでいる人がいい場所だと思えることが大切 | | | | | | |
| | 少しでも人が増えてくれればよい | | | | | | |
| 2. 一条稲梓線の整備 | 稲梓に新たな人の流れができる | | | | | | |
| | 稲梓が中心になる(南伊豆,河津,松崎へのルートができる) | | | | | | |
| | 南伊豆は陸の孤島(妻良や子浦の人のため) | | | | | | |
| 3. 地場産品を活用した売店や地域の人の活用 | 稲梓、賀茂しかない農作物をつくる(賀茂十一野菜) | | | | | | |
| | 日本らしい農作物をつくる(わさびなど) | | | | | | |
| ・I-1-4地元産品を活用した商品の開発・提供 | (日本食などへの興味は高い) | | | | | | |
| | シカを駆除してくれる人にもっと補助を | | | | | | |
| ・I-1-5地元産品の販売体制の確保 | (農作物がシカに食べられてしまう) | | | | | | |
| | (処理施設を) | | | | | | |

道ができる

いならずさ林業を手本に

記入例： 誰が主体/主な主体に 2以上の場合はメインにいつごろまでに / 短期：3年以内 中期：5年以内 長期10年以上20年未満

グループごとの成果（Bグループ）



具体的に

| 方針 方向（基本項目） | 方針、方向を実現するために こんなものに取り組んでいきたい | 取り組む主体 | | | 実施時期 | | |
|-----------------------------------|---|--------|----|----|------|----|----|
| | | 行政 | 住民 | 企業 | 短期 | 中期 | 長期 |
| 1. 農業への取組 | 半農・半x（兼業就農）（ほ場整備した農地を活かす） | | | | | | |
| ・D-3-1農業振興地域指定の 継続 | ・現在は主に水田、施設園芸が行われている ・多くの人（x）が少しずつ借りて農業を行う仕組み づくり | | | | | | |
| ・D-3-2地域ぐるみによる農地 の維持管理(草刈りなど) | ✚ 週末農業を広める（機器は借りる） | | | | | | |
| ・農地の継承 | ➡ 地元の日帰り温泉と連携すると稲稈の特徴となる | | | | | | |
| ・B-1-3耕作放棄地活用のた めの手続き(特区申請等) | ➡ 道の駅などの販売所があり、作物を売れば生産者も 作りがいがある 南伊豆の道の駅に出品しているのはほとんどが高齢者 で、みんな元気 初めて農業をやる人には、農業の指導者が必要 対象者（x）は下田市内、河津町の移住者が対象、伊豆 縦貫道を活用して来る人も考えられる ただし賃借する農地の管理をしっかりする必要がある 専業農家の後継者を育てる ・農作業の委託は若い人がやっている ・農業学校などで学ぶ人が必要 | | | | | | |
| 2. 山の保全と活用 | 稲稈小学校裏山の里山づくりを進めている | | | | | | |
| ・D-1-1(市民や来訪者を巻き 込んだ)森林保全活動の実施 | ・森の力再生事業で森林整備が進んでいる 旧下田街道整備を進める（下田街道は三島大社と下田 を結ぶ道として歩く道づくりへ） | | | | | | |
| ・森林の木材の利用と産業の 育成 | ・伊豆縦貫道の各インターチェンジで下りて、区間を 分けて歩いて行けるようにする 河津からの林道整備が行われた 活用する | | | | | | |
| ・E-2-1土砂災害対策施設の 整備 | ・景観がよい(パラグライダーなどのできるところ はないか) 山の中を歩いて回れる稲稈地域づくり ・林道・街道・里山などの連携、ネットワーク化 | | | | | | |
| 3. 運動・スポーツ | グラウンドゴルフが可能ではないか | | | | | | |
| ・G-1-1運動広場(広域公園等) の整備 | | | | | | | |
| ・G-1-2スポーツ合宿や大会等 の誘致 | | | | | | | |

記入例： 誰が主体 / 主な主体に 2 以上の場合はメインに いろいろまでに / 短期：3 年以内 中期：5 年以内 長期10年以上20年未満

第3回は、今回選んだ主な取組を実現できる(できそうな)場所の選定を検討します。

今後の 稲稈地域まちづくり会議の予定



第3回 平成26年12月18日(木)

「伊豆縦貫自動車道を地域の活性化に活用

できそうな土地を探そう」

会場：稲稈基幹集落センター

時間：19:00～21:00

見学が可能です。当日直接会場へお越しください。

お問い合わせはこちらまで

下田市役所 建設課

都市住宅係

TEL:0558-22-2219

FAX:0558-27-1007

E-mail : kensetsu@city.

shimoda.shizuoka.jp